

## スーパー耐久シリーズ2021 Powered by Hankook 第1戦 もてぎスーパー耐久 5Hours Race

2021年3月20日(土)～21日(日)  
ツインリンクもてぎ(栃木県)  
入場者数: 3月20日 4,800人  
3月21日 4,200人



激戦区 ST-Z での2年目の挑戦が始まる  
第1戦は7位でフィニッシュ

### FREE PRACTICE

2020年、メルセデス AMG GT4 で ST-Z クラスに参戦を開始した TKRI。迎える 2021 年も、TKRI 松永建設 AMG GT4 は DAISUKE を軸に元嶋佑弥をプロドライバーとして起用する。2021 年第1戦となるツインリンクもてぎは、ハマダタカアキを加えてシーズンに臨んだ。今季の ST-Z クラスはさらに台数も増え、第1戦は 15 台がエントリー。激戦は必至だ。

レースウィークは3月18日(木)午後1時から行われた3時間の特別スポーツ走行からスタートしたが、TKRI 松永建設 AMG GT4 は開始直後、思わぬトラブルに見舞われてしまった。ブレーキトラブルにより、ファーストアングラーブリッジでストップしてしまったのだ。幸

い、そのトラブル以外にダメージ等はなく、3時間の走行のなかで車両修復ができ、アタックシミュレーションもすることができたが、2021 年から導入されるハンコックのワンメイクタイヤとのマッチングを進める貴重な時間を失ってしまった。新しいタイヤはグリップもあるが、やはり昨年までとは異なるセットアップが要求されていたのだ。

明けた3月19日(金)は午前グループ1の専有走行が1時間、午後混走の2時間の専有走行が設けられていたが、TKRI 松永建設 AMG GT4 は午前の走行では、マシンの確認を行いつつ、元嶋から DAISUKE、ハマダと交代しながらセットアップを進め、午後は元嶋が



らハマダ、さらに DAISUKE、元嶋、ハマダと交代しながらロングランを行い、さらにセットアップを進めていった。午前は3番手、午後は6番手という結果で、台数は多いなかだが、上位につけることができていた。

#### 3月19日 スーパー耐久 STEL 専有走行 Gr.2 Gr.1/Gr.X

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	311	FABULOUS GRMI GR SUPRAGT4	1'57.142
2	47	D'station Vantage GT4	1'59.889
3	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	2'00.113
4	70	COMET RACING AMG GT4	2'00.387
5	885	林テレンプ SHADERACING GR SUPRA GT4	2'00.457

#### 3月19日 スーパー耐久 STEL 専有走行 Gr.2 Gr.1/Gr.X

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	22	WAIMARAMA EBI Cayman GT4	2'00.090
2	885	林テレンプ SHADERACING GR SUPRA GT4	2'00.330
3	3	ENDLESS AMG GT4	2'00.780
6	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	2'01.181

## QUALIFY

迎えた3月20日(土)の予選日。少しずつ雲が増えていたが、ドライコンディションのなか午前9時40分から50分間のウォームアップが行われ、TKRI 松永建設 AMG GT4は元嶋からDAISUKE、そして最後にふたたび元嶋が乗り込み首位で走行を終えた。

午後1時30分からの公式予選では、まずはAドライバーのDAISUKEが攻めるも、トラフィックによりわずかにタイムが伸びず、2分

02秒542というベストタイムで9番手につける。続くBドライバー予選は、国内トップドライバーがひしめく戦いとなったが、そこで元嶋が「パーフェクト」と語るアタックを決め、メルセデス AMG GT4の最上位となる4番手に。合算でTKRI 松永建設 AMG GT4は6番手につけてみせた。続くCドライバー予選でも、ハマダが2分04秒641というベストタイムで、きっちりと予選を締めくくった。



### 3月20日 スーパー耐久 ウォームアップ走行

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	2'00.149
2	22	WAIMARAMA EBI Cayman GT4	2'00.311
3	311	FABULOUS GRMI GR SUPRAGT4	2'00.468
4	47	D'station Vantage GT4	2'00.605
5	500	SZIGEN AMG GT4	2'00.776

### 3月20日 スーパー耐久 公式予選 A Dr./B Dr.

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	47	D'station Vantage GT4	3'59.265
2	311	FABULOUS GRMI GR SUPRAGT4	3'59.352
3	3	ENDLESS AMG GT4	4'01.078
6	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	4'01.917

## RACE



一夜明けた3月21日(日)の決勝日。ただ、事前の天気予報からこの日は荒天が予想されており、ツインリンクもてぎはそのとおりの強い風と雨が降る天候となっていた。

今季、スーパー耐久で採用されたハンコックのウェットタイヤはほぼすべてのドライバーが経験がなかったことから、急遽事前に15分間のウォームアップ走行が用意され、元嶋がステアリングを握った。

迎えた午後0時からの決勝は、セーフティカー先導のもとスタート。コクピットの元嶋は、#500 メルセデスや#20 BMW、#34 ジネッタと激しいバトルを展開。これを制すと3番手に浮上する素晴らしい走りを見せる。

しかし9周目、ラップダウンをかわそうとした元嶋は、周回遅れと接触を喫しコースオフ。なんとかコースに戻ったが、ふたたび追いつけを強いられることになってしまった。それでも、少しずつ雨脚が強くなるなか、持ち前のマシン

コントロールをみせる元嶋は、少しずつポジションを戻していき、#34 ジネッタをかわし#30 メルセデスの背後へ。GT500ドライバー駆る#30 メルセデスとのバトルを制し、ふたたびクラス4番手へ浮上することになった。

その後も元嶋はスリッピーなコンディションのなか、1時間33分もの長いスティントをこなし、39周を終えピットイン。DAISUKEへと交代する。

ただ、この頃には雨量もかなり多くなっており、コース各所でスピンやコースアウトも続出。ジェントルマンドライバーのDAISUKEにとっては、コース上にTKRI 松永建設 AMG GT4を留めるだけでも大変な状況になってきていたが、それでもタイムにバラつきはあれど、雨量の増加にともなうセーフティカーランにも対応し、しっかりとスティントをこなしていった。

DAISUKEはなんとか63周までのスティントを走りきり、TKRI 松永建設 AMG GT4をふたたびピットに戻す。2020年も数多く展開されてきたが、ここで再度元嶋にステアリングを託し、中盤にスパートをかける作戦だ。

しかし、雨は激しさを増し、コース外でのアクシデントも増えていく。元嶋が68周目に入ったとき、レースはふたたび雨量増加にともないセーフティカーが導入された。

しばらくセーフティカーランが続いた後、元嶋は追い上げをみせるべくレース再開を待つて

いたが、午後3時25分、レースは赤旗中断となってしまう。その後も天候の回復を待ったものの、午後4時に大会審査委員会はそのままレース終了を判断。TKRI 松永建設 AMG GT4は7位でフィニッシュすることになった。

本来であれば元嶋の追い上げ、そしてハマダのドライブが予定されていたレースではあったが、安全にはかえられない。4月の第2戦SUGOでのさらなる上位進出を目指し、TKRIは雨が降り続くもてぎを後にした。





## DRIVER'S VOICE



### DAISUKE

レースは途中赤旗中断になってしまい残念でしたね。これから元嶋選手がプッシュしてくればもっと順位を上げられたのに……と悔しいところです。私自身は、予選でももう少しプッシュできた感じもしますし、クリアラップがとれなかった悔しさもありますが、レースでは新しいウエットタイヤで、自分の引き出しのなさを痛感しました。それにしても、ストレートでもアクアブレーニングが起きる状況で、しびれるレースになりましたね。こういった経験もまた引き出しになると思いますし、次戦以降に活かしていきたいです。初表彰台を目指し精一杯がんばっていききたいと思いますね。



### 元嶋 佑弥 YUYA MOTOJIMA

昨年と同じメンバーで、初日トラブルこそありましたが、ある程度みんながどういう状況かというプランを立てやすかったのが、そこは2年目の強みですね。クルマは走り出しから調子が良かったですし、みんな良いペースで走っていました。レースでは、雨が有利になるかと思いましたが、ちょっと強すぎましたね(苦笑)。他クラスのクルマに弾かれてしまいました。しかし、チームが良いセッティングを見つけてくれていたので、感謝しています。DAISUKE選手はノーマスでしたし、追い上げようかというところで赤旗だったので残念ですが、今後に期待が持てるレースでした。



### ハマダタカアキ TAKAAKI HAMADA

まさか開幕戦から、こんなにも悪天候に見舞われるとは思いませんでした。今年はタイヤメーカーも変わったなかでの開幕戦でしたし、各チームともウエットタイヤの性能が分からないなかで、ライバルともいろいろな試行錯誤をしながらのレースになり、そのなかで結果的に7位という順位になったのは、頑張っていたので少し残念です。とはいえ、週末を通じてドライタイヤ、そしてウエットタイヤとも理解を進めることができたと思っていますし、次戦こそ自分もしっかりとドライブして、チームに貢献できるように頑張りたいですね。

#### 3月21日 スーパー耐久 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Delay	Gap	Total Time
1	22	WAIMARAMA EBI Cayman GT4	79			3:23'13.452
2	500	5ZIGEN AMG GT4	78	1Lap	1Lap	3:22'57.926
3	111	Access HIROSHIMA+ GR SUPRA GT4	78	1Lap	19.156	3:23'17.083
4	311	FABULOUS GRMI GR SUPRAGT4	78	1Lap	12.826	3:23'29.909
5	34	テクノ・SUN'S・モノコレ G55	78	1Lap	1'31.657	3:25'01.567
6	47	D'station Vantage GT4	77	2Laps	1Lap	3:22'13.473
7	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	77	2Laps	41.918	3:22'55.391
8	20	SS/YZ Studie BMW	77	2Laps	30.886	3:23'26.277

